

稱讃 二五二号

二〇二三年十二月一日発行

発行 浄土真宗本願寺派 稱讃寺

〒二二一〇〇七五

東京都足立区一ツ家三丁目五番二〇号

TEL 〇三―五二四二―二〇二五

FAX 〇三―五二四二―二〇二六

HP shousanji.com

二〇二三年度 稱讃寺門信徒会費

年会費 六千円

振込先 城北信用金庫 一ツ家支店

名義 浄土真宗本願寺派 稱讃寺教会

代表 北村 信也

口座 普通 6176051

※ゆうちょ銀行の場合は、最終ページをご参照ください。

なむあみだぶつ

南無阿弥陀仏をとなふれば

よ り や く

この世の利益きはもなし

るてんりんね

流転輪廻のつみきえて

じょうじうちゅうよう

定業中天のぞこりぬ

『浄土和讃 現世利益讃』

この前、BSで「ロシア疑惑のゴールドラッシュニアフリカ・UAEコネクションを追う」(二〇二二年英国作製)を見ました。ウクライナへの侵攻で経済制裁を受けているロシアですが、スーダンやマリで独裁的な政権がロシアからの軍事協力の見返りとして金の採掘権を与えている。仲介者の一人はあの民間軍事会社ワグネルの創設者プリゴジンでした。人身売買



された子どもたちが劣悪な環境で採掘した金や小規模ながら採掘をしていた民間人を襲撃し金を奪うワグネルの兵士たち。それらの金の世界の金の流通を支配しているUAE政府も関係する組織に密輸されて精製され、正規の流通と見分けがつかない構図になっているとのこと。番組作製の記者がUAEの金を取り扱う会社にアフリカの金を採取する子どもたちの実体を話し、心が痛まないかと問うたけど何の返事もなかったそうだ。

ロシアのウクライナ侵攻、イスラエル軍とハマスの戦争、いずれも弱い者が巻き添えになっている姿や、人身売買で安い賃金で、借金を返すまで奴隷のようにこき使われ、劣悪な生活を強いられている子どもたちの姿を拝見すると、「宿業」という言葉では片付けられない。親鸞聖人の時代も、常に戦があり、劣悪な生活を強いられていた人々がおられ、そういう方々こそが救われる道を仏教に求められたはずだ

親鸞聖人報恩講

親鸞聖人のご往生(新暦一月十六日・旧暦十一月二十七日)を期に、営まれ続けられてきたご法要です。

第三代ご門主の覚如上人が著された『報恩講式』に、親鸞聖人の恩徳を三つ揚げておられ、その二番目に「本願相応の徳を嘆ずる」とあります。

それは、親鸞聖人は、どういう方であろうと、快く受け入れられ、阿弥陀さまの「どの方も隔てることなく、必ず仏にいたします」との誓願が成就した証として顕わしてくださった「南無阿弥陀仏」の「報恩のお念仏」を十方の全ての諸仏方が「南無阿弥陀仏」と称讃(第十七願)することで、私たちに届けてくださったことをお示しくされました。

まさに、そのことが、「本願に相応」していることであります。自分の愚かさに気づかされることも、ご本願に遇っていることであり、慚愧と感謝のお念仏となっているのであります。また、親鸞聖人は常に私どもに、疑う者も必ず信をとり、謗る者も遂にはごころ(情)を翻すとおっしゃっておられます。正に、仏さまのお心(意)と同じでありました。

私のごころは、何処までも「我執」であり、疑い、謗るごころであるかもしれませんが、「南無阿弥陀仏」のお念仏に出遇っていることを、この報恩講で一緒に見つめて参りましょう

築地本願寺2023年報恩講の日程

11月11日(土) 14:00 逮夜法要 17:00 初夜勤行
 11月12日(日) 6:30 晨朝勤行 10:00 日中法要 14:00 逮夜法要 17:00 初夜勤行
 11月13日(月) 6:30 晨朝勤行 10:00 日中法要 14:00 逮夜法要 17:00 初夜勤行
 11月14日(火) 6:30 晨朝勤行 10:00 日中法要 14:00 逮夜法要 17:00 初夜勤行
 11月15日(水) 6:30 晨朝勤行 10:00 日中法要 14:00 大逮夜法要 17:00 初夜勤行
 11月16日(木) 6:30 晨朝勤行 10:00 ご満座法要

※布教 朝戸臣統氏(11日逮夜～13日逮夜) 清岡隆文氏(14日晨朝～16日晨朝)

※関連行事 ○仏教何でも彼んでも相談(12日～15日 10:00～16:00)

○御斎膳(抹茶席付) 11日～16日 懇志額 3,000円以上 会場 紫雲(第一伝道会館)

○御斎弁当 12日～16日 懇志額 2,000円以上 会場 蓮華殿・瑞鳳(第二伝道会館)

○パイプオルガン演奏 12日12:45～ ○楽友会コーラス 13日12:45

○通夜布教 15日(水)20:30～16日(木)5:40 会場 聞法ホール

○報恩講コンサート 10月30日(月)13:00 ○園児の報恩講 11月8日(水)11:00

○めぐみの参拝式 19日・23日(11:00/13:00/15:00)

※帰敬式 詳細お問い合わせ 築地本願寺コンタクトセンター 0120-792-048

稱讃寺 報恩講

日時 十二月十七日(日)正午

日程

一二:〇〇 受付

一二:三〇 御斎

一三:〇〇 おつとめ

『正信偈』(行譜・六首引き)

一三:四五 休憩

一四:〇〇 法話 住職

「報恩のお念仏」

一五:〇〇 茶話会

一六:〇〇 恩徳讃

『信仰についての問と答』

第一集

答 川安田理深師
昭和三十七年出版

G・南無阿弥陀仏の中に、皆な入るのですか。

H・南無阿弥陀仏の中はみな『浄土』です。ただ南無阿弥陀仏はみな入れているけれども気が付かぬ人は入っておらぬ、入れているけれども入っておらぬ。有難い！といった人だけが入る。へはいれるということとへはいるということは別である。入れているのは全部であるが、はいるのは気が付いた人のみがいいる。

あなたの間違いは、信心を到達点として信心を掴んだらそれでよいと思うが、そうではない。

信心から始まる。そこから、初めてへ出発点が出る。

G・世間でいうのは、一つのはげましのようなものですか。

H・いや、信心でしまいにするのは未来往生です。信心から出発して、そして本願に帰っていく。本願に帰るのです。如来の因位のお心に帰っていく。信心は腰を落ちつけているのでない。信心というもののから、願に帰る。願が成就した信心であるが、信心から願に帰る。信心は腰を落ちつける場所でない、立ちあがる場所である。

G・我々に与えられたところが信心……

H・そうです。仏の仕事が我々に与えられる。休んでいる訳にいかん。だから、信心というものは若返るものである。死ぬる準備ではない。

G・死んだらいけないから、早く聞かねばならぬ、とっております。

H・そういうものを『十九願』というのです。

G・早く仏法を聞いたら若返って元気になりますか。私は早う聞いてもいつも早く聞かずに延ばそう延ばそうと逃げております。

H・南無阿弥陀仏によって、出発点が与えられる。それが信心である。妄想から出発することでない。妄想は出発点にならぬ。普通は、助からんところが出発点で助かったところへ行こうとする。そうではない。助かったのが出発点である。助からん心はいつまでたつても助からぬ。南無阿弥陀仏が出発点、信の成就が出発点で結果ではない。

G・成就が出発点ですか。

H・『従果向因』ですから、果から因に向かうのである。因から果に向かうのでない。助かった人が始めて助からぬことを知るので、助からん人は助からぬということもわからない。

……

G・宿業はへたましいというのですか。

H・宿業のことがよくわからんから、たましいといっている。

G・ただ、不仕合わせを宿業々々といひよりますか。

H・これは、我々が如何に考えても、どうにもならぬ事がある。考えて考える通りにいけるならば、宿業はない。我々の深い底に、曾我先生が『本能』といわれるが、本能というか、或いは宿業は本願であるといつてもよい。

G・宿業を本願といつても、私の宿業ですか。

H・へ私といつてもそれは一切衆生に連なっている。一人の宿業ということでない。あらゆる衆生の宿業。一人一人の宿業であるけれども、宿業によつ

て関係している。

G・つながっている……

H・それは、人間は分別で夫婦になったとか、親子になったとか考えているが、そうでない。縁があったからである。悪い事を起こすまいと思つても縁があつたら起こす。起こしたと思つても、宿業がなければ起こさない。分別がとどかん。

G・そこになると、分別にならんのですか。

H・そうでしよう。悪い事をしようと思つても出来ぬ。善い事をしようと思つても悪い事になつてしまふ。善悪の計らしいの及ばん事です。そういうように、人間というものは重いものです。我々の体は宿業を感じているものです。我々の生きていることは感ずるもの。生きているということは宿業の自覚です。

G・分別は消えて、宿業が責任を負わんならんようになるのですか。

H・宿業というものは自分が作つたに違いないけれども、自分に責任があるのだけれども、何というか分別の意識で反省出来ぬものですな。分別というものも、その底から起つてくる。どんな分別も宿業の底から起つてくる。分別というものは宿業から出ると思わぬけれども、実はその分別も宿業から起つてくる。宿業から出ながら宿業と思わぬ。へ宿業だといえれば分別は消える。その宿業の深さは本願の深さと同じことです。それ程生きているということとは根が深いのである。

G・貪・欲・瞋・恚を起すはたらしめますけれども、善い事に於いては働かん。

H・善い事をしようと分別は思うけれども、それは宿業を知らぬからです。だから、宿業というものに任せることが出来ぬ。本願に任せるということと宿業に任せるということと同じ事です。分別が叶わんのだから本願に任せる。そうしたら、宿業がそこに転じてくる。宿業全体が南無阿弥陀仏の功德となる。

G・信心で一切衆生と平等……その信心を信ぜんものには徳が具わらんのですか。

G・翻えす心は、南無を与えて貰う……。H・自分の分別をたよった心が、分別を捨てて仏をたのむ心に転じた。へ南無によって転じて貰う。そういう心を与えて貰う。

H・それは、その人の心でしょう。体は一切衆生と平等。業によって一切衆生と平等。その一切衆生が平等の心に目覚める。

G・宿業が南無阿弥陀仏と一緒に……

G・本願のはたらきというものは、なかなか容易なことでは……

H・他人のことを気にかける必要はない。「あいつは未だだ。わしの方が」という。それは高上りです。妄想というものは、他人と自分を比較しているものです。あいつの信仰はまだ駄目だとか……

H・そうです。宿業の身に満つる。心に満つると書いてない。それが涅槃の功德です。宿業というところに生死があるのですが、その宿業に涅槃の徳が満つる。有難いというのは宿業を有難いという。

H・だから、あなたが救われたということに、一切の衆生が救われる宿業が通じているのですから、一人々々が一切衆生です。一人々々を集めて一切衆生でない。

G・そうですか。

G・それは、自分独りで他の者に関係ないのですか。

H・宿業の身が南無阿弥陀仏の身になる。だから、我身ということは〈業の身〉ということですよ。それが〈法の身〉になる。法身になる。南無阿弥陀仏が我身になる。だから、問題はその分別というものを捨ててたのむ。南無の一心ということになれば、それはそういう南無の心は宿業を嫌わぬ。嫌わなければ宿業も無いと同じ事です。

H・いや、宿業で続いているのです。一人々々が一切衆生なんです。G・一人が救われれば、一切衆生が……

G・宿業を南無は嫌わぬといっても、やっぱり、宿業が信じて……信ずるものは宿業でしょう。

H・宿業といっても、信心とか如来の心とかいうものは、そういうものは一切衆生と一つの心。平等の心。人と区別しているのは妄想。我執というものです。宿業に帰れば、自分が一切衆生と平等。一切衆生と平等な心、それは如来のお心よりない。信心によって如来のお心をたまわるのである。妄想が一切衆生と区別している。

H・そうでない。宿業は心でない。身です。本願の心です。あなたの心は妄想。この南無した心も南無せん心も、それが宿業と知れば辱けない。

H・如来の自覚で我々の自覚出来んものです。宿業というのは如来の心である我々の宿業というのは〈運命〉であって『愚痴』です。宿業も我々の分別

G・南無するのは、本願が南無するのですか。

G・信心で一切衆生と平等……その信心を信ぜんものには徳が具わらんのですか。

H・それは、その人の心でしょう。体は一切衆生と平等。業によって一切衆生と平等。その一切衆生が平等の心に目覚める。

で考えると、宿業にならぬ。運命になっている。宿業というのは如来の心である。

G・そうすると、如来の宿業…宿業も如来が責任をもつて下さるのですか。

H・我々に責任は有りません。我々が引受けようと思いません。如来は業は作りませんが、その如来のお心だけが一切衆生を責任としていられる。

G・一如の心で、一切衆生を引受けて下さるのですか。

H・そこに、我という『設我得仏、一切衆生』。機の深信というのは如来の心です。

G・そういう大きな心に引受けて頂くのですか。

H・だから、分別というものは、如来はあなたの分別を目当てにしていられるのでない。分別は如来のかなわん心です。

G・分別は無くなるものでもありますまいが、とにかく、それをよう立てんならばよいのですか。

H・分別は固執する。我執です。『邪見驕慢惡衆生』です。

G・そうしてもやまるものでないでしょうが、人間の体をもっている限り…。

H・体がなくなれば…体ということがわからん事です。「妄念」「妄想」も心です。体でないのです。妄想は心のことです。体のことではない。体はどうして妄想を起しますか？妄想は心の働きで体の働きでない。妄想は無くなるものとも言えぬし、無く

ならんものとも言えぬ。目覚めれば無くなるものであるし、目覚めなければ無くならんものです。無くなるとか無くならんとか考えているのが、妄想です。昨夜の話もみなそうです。

G・放っておく訳にいかんのですか。

H・放っておいてこれだよのだからというのも妄想ですし、やけくそです。そこに、懺悔ということがあ

る。身ということに気が付いてみれば、体は妄想でないけれども、心は妄想だとわかる。

G・いつでも、転倒しているのですか。

H・『妄想転倒』ということがあ。妄想によって転倒している。無明によって逆しになる。

無明の破れたのが信心。身が破れたということではない。腹が立つとか欲しいとかいうことは大した事

ではない。我執が一番深い罪です。だから自分というものは妄想だけれども、南無ということによって、初めて阿弥陀仏の心にふれる

それがへ呼びかけです。そういうものに触れて本当の自分が生れる。宿業を背負うような自分が生

れる。自分があつて本願にふれるのでない。自分は妄想で、まあいつてみれば他人のようなものです。呼びさまされたのが、へ本当の自分です。本願の中

から生れてくる。信心として自分が生れてくる。

G・呼びかけているのが南無であつても…。H・本願の呼びかけをへ南無という。呼びかけで

本願であると共に、また信心です。妄想がさめること。妄想というものは、さめるという事にはかなわ

んのです。

G・そうですか。

H・そうです。妄想を妄想と知ったら妄想はないのです。覚めても有るという事はない。太陽が出たら千年の闇も消える。千年間続けて来た妄想も、どんな強い我執も質が違ふ。迷った心は千年であつても、目覚めた一瞬にかなわん。量から言えば、信心

は一念。妄想は無始以来の妄想ですが、しかし一念の信心にかなわん。目覚める心は妄想も届か

のです。妄想と知ったら、妄想は消える。

G・本願に遇えば、恐れるものはないのですな。

H・無いものを有るものと思っているのです。妄想が消えれば業が見えてくる。業が見えて来た時に、

業は功德に転ずる。妄想は転ずるものでない。何を下らんことをうろうろしておったのかと消えるも

のです。業は消えるものでない。妄想が破れて始めて業が知らされる。妄想があるから憎んでお

ける場所となる。宿業の場所です。

G・宿業が場所になるのですか。妄想の根も葉も倒

れるのですか。

H・根も葉もないもの、それを妄想という。あなたが頭をひねっているのは、根も葉もない独り相撲と

G これが、呼びかけによって倒れることと違いま
すか。

H 二つ考えるから…妄想と知られるのが呼び
かけです。呼びかけがなければ、妄想と知られぬ。
妄想と知っても、どうにもならぬというけれども、
どうにもならぬと考えているのが妄想です。妄想で
覆われておったその覆いがとれて、自分が引出され
る。引出されるといってもよいし、本願が名乗る。
助けたまえたのむというのは仏の名乗りです。だ
から、最後にいけば地獄に落ちるより仕方がない
というが、それが妄想が馬脚を表わしている。地獄
を恐れているのは妄想です。信心は地獄を引受け
ることです。如来の心にふれてみれば、如来こそ助
けねばならん。自分など助からんでも満足という
感激がある。地獄に落ちるより仕方がないという
も、それは欲です。欲をみたすのは信仰でない、我
儘です。助けようというのは如来の心です。如来の
心にふれてみれば、助けて貰うというようなあつか
ましい要求は撤回せんならん。満足して辱けない
という。如来に助けられたら、地獄へ行くのも極楽
へ行くのも変りはない。地獄へ行くことです。

G 地獄へ行けることですか。やっぱり、本願を向
うに眺めるから…。

H 向うに眺めるといつて…眺める自分も向うに
おいて、こういうどうもならん者だため息をつい
ている。本願も自分も向うに置いている。それが妄
想です。逃げ廻っているのです。しかし、逃げ廻つて
いるということがわかれば、もう逃げられぬ。あな
たの相手になつてゐるのは妄想の相手になつてゐる
ようなものです。妄想がこれまであなたを苦しめ、
他人を苦しめ、如来を苦しめて来たのです。自分
自身を苦しめ、一切衆生を苦しめて来たのです。
G 自分の妄想というものが、何処にもおり場所が

なくして逃げるように、自分の止まる場所もない
ようですが。

H 無いのです。おり場所があるのに逃げるなら妄
想じゃない。ないのにあると思うから、顛倒。それ
を妄想という。

G そのこの座りが無い筈なんですが、そこに自分
が苦しめられ、迷うているということが、自分なが
らおかしいのですが、それで本願をたのむという事
になるのと違いますか。

H 事実、たのまんじゃないか。

G どこぞに、頼まにやあらん。

H 頼まんならんといつても、頼まんですよ。

G そうすると、これから頼まんならんのですか。

H 今はずっと「本願に帰す」ということが、ご信
心を獲得されたことと思つていましたし、信心獲
得がゴールだと受け取つておりました。

安田師は、「信心を獲得するのが始まりで、そし
て本願に帰していく」のだと仰つておられる。

私なんかは、「信心を獲得するのが始まり」と言
われても、信心を獲得したとの思いに至つてもおり
ませんので、始まりも何もありません。

また、安田師は「信心を頂いて、はじめて如来の
仕事我々に与えられる」ともおっしゃつていま
す。これは信心を頂いたら、如来と同じ行動が出
来ると仰つておられるのか、阿弥陀さまのお心を
頂いたなら、阿弥陀さまが私を救つておられるこ
とを感じ入る事が出来ると仰つておられるのかと
も受け取れました。

ただ、阿弥陀さまのお心（ご信心）ということ南
無阿弥陀仏のお念仏を通して、そのことを知る縁
を頂いたことは間違いありません。

それでも、普段はそのことを忘れ、また疑い、謗つ
ている私です。

信心から出発して、そして本願に帰っていく。」と
か、「今が信仰。信仰というのはいつても今です。未
来往生でないのです。」というお答えに、驚きをか
くせませんでした。

それは、安田師が師と仰いで居られた金子大榮
師は、「来世の往生ということがあつて、はじめてそ
こに現生不退が成り立つのであります。未来往生
という時間的な永遠の場がでなければ、現生不
退ということもでてこないのでしょうし、又現在安
住ということもでてこないでしょう。」と仰つておら
れました。

確かに、親鸞聖人は『教行信証』後序にて「建仁辛
酉の曆、雑行を棄てて本願に帰す」と仰つておられ
ます。私はずっと「本願に帰す」ということが、ご信
心を獲得されたことと思つていましたし、信心獲
得がゴールだと受け取つておりました。

安田師は、「信心を獲得するのが始まりで、そし
て本願に帰していく」のだと仰つておられる。

私なんかは、「信心を獲得するのが始まり」と言
われても、信心を獲得したとの思いに至つてもおり
ませんので、始まりも何もありません。

また、安田師は「信心を頂いて、はじめて如来の
仕事我々に与えられる」ともおっしゃつていま
す。これは信心を頂いたら、如来と同じ行動が出
来ると仰つておられるのか、阿弥陀さまのお心を
頂いたなら、阿弥陀さまが私を救つておられるこ
とを感じ入る事が出来ると仰つておられるのかと
も受け取れました。

ただ、阿弥陀さまのお心（ご信心）ということ南
無阿弥陀仏のお念仏を通して、そのことを知る縁
を頂いたことは間違いありません。

それでも、普段はそのことを忘れ、また疑い、謗つ
ている私です。

鑑賞ご希望の方は、同封の申込用紙に記載して12月6日までに
稱讃寺にご連絡ください。

親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年記念

前進座特別公演

弱き者、貧しき者をこそ救わんと、
道を照らした親鸞聖人と
その妻恵信尼の、慈しみと絆の物語

親鸞聖人
嵐芳三郎

法然上人
藤川矢之輔

渡辺善則作
河原崎國太郎・川名あき 演出

恵信尼
浜名実貴

覚信尼
有田佳代

親鸞聖人と恵信尼さま

花 ごぶし

東京公演

浅草公会堂

2024年 1月29日(月)・30日(火)・31日(水)
令和6年

ご観劇料金(全席指定・税込み)

一等席	9,000円
二等席	5,000円
三等席	3,500円

ご寺院特別料金
一等席 8,000円

後援

浄土真宗本願寺派
真宗大谷派
真宗教団連合
(公財)仏教伝道協会

稱讃寺一二月行事予定

六日(月) のんのん法話会 午後二時

十一日(土)～十六日(木)

築地本願寺親鸞聖人報恩講

十六日(木) のんのん法話会 午後二時

二十六日(木) のんのん法話会 午後二時



ちようもん
聴聞

ひたすら道を聞き開く

みち き ひら

二〇二三年「心のともしび」十一月カレンダーより

親鸞聖人御誕生850年

築地本願寺

立教開宗800年

慶讃法要

ご懇志のご進納を賜っておりますこと厚くお礼申し上げます。
9月23日の秋季彼岸会法要までを期限としておりましたが、12月10日の報恩講までと延長させていただきたいと思ひます。
来年の4月の慶讃法要のご縁にご一緒にお遇いしたく存じます。
何卒、ご協力賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

①城北信用金庫一ツ家支店

名義 浄土真宗本願寺派
稱讃寺教会 代表 北村信也
口座番号 普通 6176051

②ゆうちょ銀行店名四四八

名義 キタムラ シンヤ
口座番号 普通 2374851

③ゆうちょ銀行電信振替

受取人口座番号14430- -23748511
おなまえ 北村信也(キタムラ シンヤ)

編集後記(愚案)

「宿業」の本来の意味も飲み込めておりませんが、人間にはどうすることもできない、一種のあきらめを促すような「運命」論的に一般には捉えられているようです。

親鸞聖人の著書には「宿業」という言葉は一度も使われておりません。「遠く宿縁を慶べ」と仰ったように「宿縁」という言葉が使われています。「宿業」と「宿縁」の違いがあるのでしようか。もしかしたら、当時も「宿業」という言葉は誤解を招いていたので、親鸞聖人はお使いになられなかったのかもしれませんが。

表紙に申しました今のアフリカの子どもたちにも「これも宿業だ」と言えるはずもないことです。が、現代の日本でも被差別部落の方々に「宿業」と説いてきた事実があることを忘れてはならないし、「遠く宿縁を慶ぶ」とは、どういう心境なのか味わっていかなくてはと思うことです。

二〇二三年度「ご遺骨一時お預かり費」

管理費 五千元

永代使用積立金 五千元から

振込先 城北信用金庫 一ツ家支店

名義 浄土真宗本願寺派 稱讃寺教会

代表 北村 信也

口座 普通 6176051

または

振込先 ゆうちょ銀行

店名 四四八(ヨソヨソハチ)店

名義 キタムラ シンヤ

口座 普通 2374851

門信徒会費 6千元 お預かり管理費 5千元 永代使用積立金 5千元から